

Digital Transformation

全員 DX

社員一人ひとりがやりがいを持って働く
「未来志向の建設業」へ



横山建設株式会社

DX推進計画

2025年12月10日

Agenda

- ▶ DX推進の背景と目的
- ▶ 経営理念・DXビジョン
- ▶ 目指すビジネスモデル
- ▶ DX戦略
- ▶ 具体的なライゼーション
- ▶ DX推進体制
- ▶ DX人材の育成
- ▶ DX戦略の達成指標

01

DX推進の背景と目的

Background and Purpose of the Plan



▼ DX推進の背景と目的

横山建設株式会社は、持続可能な建設業の実現を目指し、デジタル技術を積極的に活用するDX（デジタルトランスフォーメーション）を推進します。

この取り組みの目的は、業務を効率化して労働時間を削減するとともに、従業員一人ひとりが働きがいを感じられる職場環境を整備することです。また、ペーパーレス化を進めることで事務作業の負担を軽減し、情報共有の迅速化も目指します。

代表取締役の横山昇が統括責任者となり、各部門から選出されたメンバーで構成されるDX推進委員会を中心に、全社一丸となって取り組みを進めます。

2027年末までに全従業員がデジタルツールを使いこなせるよう、3つのフェーズに分けてDXを段階的に定着させていきます。これにより、変化に柔軟に対応できる組織文化を醸成し、最新技術を活用した品質向上と効率化を図り、顧客満足度向上に貢献していきます。

2025年12月10日

代表取締役

横 山 昇

/ Noboru Yokoyama

02

経営理念・DXビジョン

Management Philosophy
DX Vision

▼ 経営理念 Management Philosophy

持続可能な建設業の実現。

私たち横山建設株式会社は以下の理念のもと
持続可能な建設業を実現してまいります。

- ・ 基本を徹底し、顧客満足度向上を目指す
- ・ 最新技術を活用した品質向上と効率化
- ・ 持続可能な社会に貢献する品質の追及
- ・ 変化に柔軟に対応できる組織文化の醸成



▼ DXビジョン

Vision

全員DX

横山建設は、デジタル技術を最大限に活用することで、社員一人ひとりがやりがいを持って働く
「未来志向の建設業」を目指します。

私たちは、アナログからデジタルへの変革を通じて、現場とオフィスの情報共有を迅速化し、非効率な
業務プロセスを根本から見直すことで、持続可能な成長を実現します。

この変革は一部の専門家によるものではなく、全社員が主役となる「全員DX」として、働き方そのもの
のをよりスマートで魅力的なものへと進化させていきます。

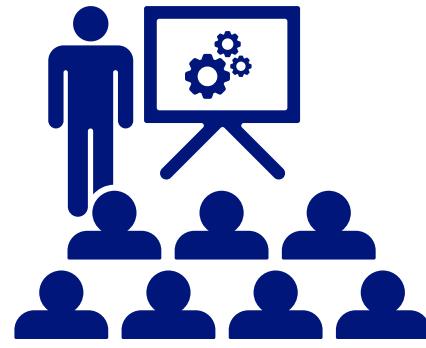
03

目指すビジネスモデル Business Model

▼ 目指すビジネスモデル

Business Model

1



「属人化」から「組織のナレッジ化」へ

建設現場で発生する工事進捗・施工情報・品質記録等を、BIM/CIMとクラウド基盤でデジタル統合・共有し、個人の経験知を組織のナレッジへ転換する。これにより、品質と生産性を全社で再現可能な状態へ引き上げ、若手が熟練者の知見を学びながら即戦力化できる仕組みを構築する

2



「働き方改革」と「業務効率化」の両立

ペーパーレス化と電子承認ワークフロー、LINE WORKS等のクラウド連携で現場一本社の意思決定を迅速化し、時間・場所に依らない働き方を実現する。同時に、業務データを継続的に分析し、ボトルネック解消・手戻り削減を図ることで、生産性向上とワークライフバランスを両立する。

▼ 目指すビジネスモデル Business Model

3



「3Kイメージ」からの脱却と人材多様性の活躍

現場のデジタル化・安全性向上・遠隔管理を進め、従来の3Kイメージを刷新する。ICT機器やBIM/CIMの活用で現場負担を軽減し、女性・若手・シニアが強みを活かして活躍できる環境を整備することで、業界魅力を高め、持続的な人材確保につなげる。



04

DX 戰 略 DX Strategy

▼ DX戦略

DX Strategy

戦 略 I

現場情報のデジタル化と共有

建設現場で発生する進捗・品質・安全・図面・出来高情報をリアルタイムでデジタル共有し、現場と本社が一体で機能する体制を構築する。

BIM/CIMやクラウド現場管理システムを基盤に、ドローン・3Dスキャナ等のデジタル計測技術を活用し、現場データを即時収集・分析可能とすることで、判断スピードを高め、工期遵守・品質安定・生産性向上を実現する。

戦 略 II

コミュニケーションと働き方の変革

クラウド基盤とモバイル環境を全社で標準化し、現場一本社一協力会社が同一データを共有して即時連携できる体制を整備する。電子承認・文書管理・オンライン会議を常態化させ、電話・FAX・紙に依存しないスマートな働き方を推進する。これにより、決裁リードタイムの短縮、コミュニケーションロスの解消、柔軟で持続可能な働き方（リモート承認・在宅対応等）の定着を図る。セキュリティポリシーを整備し、アクセス権限管理を徹底することで、安全かつ効率的な情報共有を実現する。

▼ DX戦略

DX Strategy

戦 略 III

熟練技術の継承と人材育成

熟練技術者の持つノウハウ・経験・判断力をデジタル化し、属人知から組織ナレッジへの転換を図る。施工ノウハウ・改善事例・安全教育資料等を動画やデジタルマニュアルとして蓄積し、ナレッジDB・オンライン学習プラットフォームを通じて若手社員が学べる仕組みを整備する。AI解析により施工データと品質結果の関係を特定し、教育内容を最適化することで、人材育成の効率化・早期戦力化・品質の均一化を実現する。経営層は教育進捗・スキル習得状況をデータで把握し、科学的な育成投資判断を行う。

戦 略 IV

安全・品質・経営判断の高度化

IoTセンサーヤAIカメラを活用し、現場で発生する作業状況、環境条件、出来形情報を自動的にデジタルデータとして取得する。これらを品質・原価・安全に関する各種業務データとともにクラウド基盤上へ集約・統合し、現場・品質・原価・安全の状況を同一基盤で一元管理する。これにより、施工状況やリスクをリアルタイムで可視化し、品質および安全管理の高度化を図るとともに、経営層が全社の状況を即時に把握し、迅速かつ的確な経営判断を行えるデータドリブンな経営体制を構築する。

05

具体的なライゼーション Rization

▼ 具体的なライゼーション

Rization

STEP1

～2025年度末

目的： DX推進の基盤整備と全社員の意識醸成

- DX推進委員会・体制の確立、DX方針・基本ルールの策定
- LINE WORKS・クラウド管理システムの運用開始（進捗・カレンダー共有など）
- BIM/CIM活用の試行展開、現場での3Dモデル運用トライアル
- 現場・本社間のデータ共有体制構築、電子承認・報告書自動化の一部導入
- 熟練技術動画・マニュアルのデジタル化開始



▼ 具体的なライゼーション

Rization

STEP2

2026年度

目的： DXの実践・標準化による業務改革の定着

- 各部門DXリーダーによる現場主導の業務改善・標準化
- 承認・報告・品質・原価情報の完全ペーパレス化
- 経営ダッシュボード構築によるリアルタイム経営の実現
- AI・IoT・クラウド連携による工程予測・リスク検知の実装
- DX教育の体系化（eラーニング+実務トレーニング）



▼ 具体的なライゼーション

Rization

STEP3

2027年度

目的： DX経営の完全定着と地域・業界への展開

- 全社員がデジタルツールを自然に活用できる文化を定着
- DX推進委員会による継続的な改善・KPI評価・経営層へのフィードバック
- データドリブン経営の常態化（原価・品質・安全・進捗データ統合）
- 外部協業・行政・教育機関との連携による地域DX推進
- DXナレッジ共有・社内表彰制度を通じた継続的成长の仕組み構築





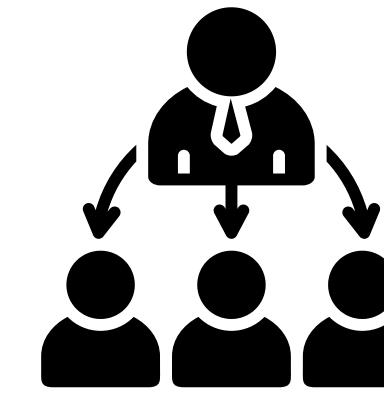
06

DX推進体制

Implementation structure

▼ DX推進体制

Implementation structure



【DX推進体制】

当社は、DXを経営戦略の中核と位置づけ、経営層主導のもと全社的な推進体制を整備している。DX推進を横断的に進めるため、代表取締役を統括責任者とし、各部門の責任者・実務担当者を構成員とする「DX推進委員会」を設置。同委員会は、経営方針・DX戦略の進捗管理、社内ルール策定、教育施策を統括し、営業・総務・建築・土木など全部門におけるデジタル化・ペーパレス化・業務効率化の実行推進を担っている。

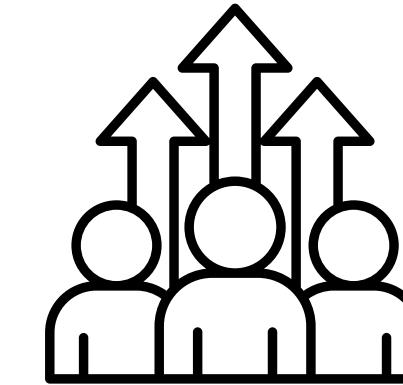
07

DX人材の育成

People development

▼ DX人材の育成

People development



【DX人材の育成（教育・スキル定着）】

社内勉強会・研修の実施

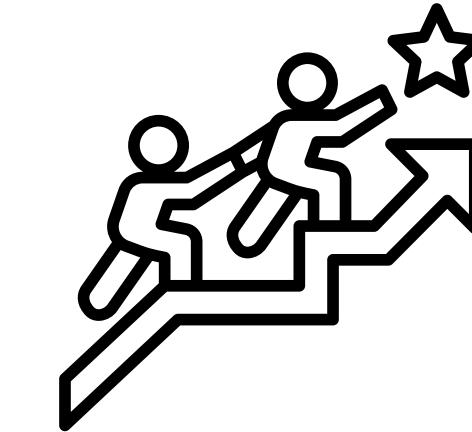
- 年2回以上、クラウド活用・BIM/CIM・LINE WORKS等の操作研修を実施。
- 部門横断のDX推進委員会が主体となり、各部門の課題に応じた実践型OJTを展開。
- 新入社員研修では「基本的なICTスキル」を必修化し、全社員が共通ツールを自走的に扱えるレベルを目指す。

ナレッジ共有体制の整備

- 業務マニュアル・動画教材・FAQを社内ポータル上で一元管理し、誰もが自己学習可能な仕組みを構築。DX推進委員会メンバーが各部門におけるデジタル活用のサポート役として定期巡回。

▼ DX人材の育成

People development



【DX人材の確保（採用・配置・外部連携）】

社内DXリーダーの選定と配置

- 各部門より1名以上の「DXリーダー候補」を選定し、3年以内に全部門配置を完了。
- DXリーダーは委員会メンバーと連携し、現場のデジタル推進・教育指導を担う。

外部連携・専門家の活用

- 必要に応じて外部コンサルタントやITベンダーを招聘し、DXプロジェクト・データ分析・ツール導入支援を実施。
- 他社事例や建設業界DXの最新動向を学ぶ外部セミナーへの派遣を推進。

新卒・中途採用戦略

- 採用方針に「DX推進・ICT活用能力」を明示し、デジタル人材の採用強化を図る。
- 若手層にはBIM/CIM・クラウド管理などの実践教育を段階的に導入し、次世代の中核人材を育成。

08

DX戦略の達成指標 Target value



DX戦略の達成指標

Target value

1. DX戦略 I

「現場情報のデジタル化と共有」への達成指標

- 2027年末までに
 現場進捗・品質・安全・図面情報のデジタル管理率 100%
- BIM/CIMまたはクラウド現場管理システムを活用した
 デジタル施工案件比率 70%以上
- 現場ー本社間の情報共有に要する
 報告・確認リードタイムを30%以上削減

2. DX戦略 II

「コミュニケーションと働き方の変革」への達成指標

- 電子承認・電子文書管理の利用率
 社内業務の90%以上をペーパレス化
- 決裁・承認業務の平均処理日数
 導入前比 50%削減
- LINE WORKS・クラウドツールを活用した
 全社員のデジタル業務参加率 100%





DX戦略の達成指標

Target value

3. DX戦略III

「熟練技術の継承と人材育成」への達成指標

- 熟練技術・施工ノウハウの
動画・デジタルマニュアル化件数：毎年10件以上
- 若手社員（入社5年以内）の
標準業務の自立対応率 80%以上
- DX教育・研修への
年間受講率：全社員80%以上



4. DX戦略IV

「安全・品質・経営判断の高度化」への達成指標

- 原価・品質・安全・進捗データの
クラウド一元管理率 100%
- 経営ダッシュボードを活用した
月次経営レビューの定例化（実施率100%）
- データ活用による
手戻り・是正指示件数の20%削減

▼ DX戦略の達成指標

Target value

5. DX推進体制・文化定着

- ・各部門における
DX推進担当者の配置率 100%（2027年まで）
- ・DX推進委員会からの
業務改善提案件数：年3件以上
- ・DX施策に対する社員アンケートによる
「業務効率が向上した」と感じる社員割合 70%以上



Thank You!

全員 DX

社員一人ひとりがやりがいを持って働く
「未来志向の建設業」へ



横山建設株式会社

DX推進計画